



園芸課
鈴木 琢磨

秋冬菌発生スタート

旬を迎える菌床しいたけ栽培管理



朝晩の気温も下がり秋めいてきました。JA秋田ふるさとでは県内一のかきの産地として有名です。これからきのこは旬を迎え、菌床栽培が本格化してくる時期ですが、近年の異常気象の影響から9月10月ともに気温が高く病害虫の活動が活発になっていきます。ここでは病害虫の防除と安定出荷に向けた管理について紹介します。

《発生操作後の管理》

温度管理

・朝から夕方まで発生ハウス内の温度は23℃に保つことが基本です。

・夜温が低い場合は夕方に暖房機の温度を13〜16℃にセットし変温管理します。

散水管理

・基本的に発生中は散水を行いません。
・初発また追い芽の発生により長期間散水を行っていない菌床は非常に水を欲しがっています。S級(500円玉くらいの大きさ)まで早めに収穫し上面にたっぷり散水を行って下さい。

換気管理

・朝と夕方方の温度の低い時間帯に換気を行って下さい。
・酸素濃度の高い状態で温度管理を行った方が菌床の温度が上がります、雑菌の繁殖も抑えられます。

休養管理

・集中発生後の菌床、きのこが小さい、変形がある菌床に有効です。
・発生中のきのこを収穫し、昼夜高めの温度設定(20〜23℃)で散水を行いながら3〜7日間管理を行います。

ナメクジ

【生態】・広食性(きのこ、果物、野菜など、ほぼなんでも食べる)
・繁殖時期は初冬と早春。

・菌床栽培における隠れ場所は側面水の水際付近。

【防除】・生息場所をなくすための施設周辺の除草。
・床への忌避剤の散布。(つばき油、ラベンダーオイル、ハッカ油、木酢、食酢が有効。ビールに引き寄せられるみたいなので缶を置くのも効果的)
・成虫を割り箸で捕殺。(夜行性のため夜間の捕殺が効果的)



ナガマドキノコバエ、ガガンボ

【生態】・幼虫はきのこを優先的に食害し、菌床も食害する。

・20℃及び25℃での孵化率が最も高く15℃では半減する。
・繁殖を鈍らせるには15℃での発生管理が効果的。



ケツメカ

【生態】・近年、館内での繁殖が増えている。

・幼虫のきのこへの食害はないが、菌床内に侵入して食害するため菌床が傷みやすくなる。

【ハエ目の防除】

・換気口、ハウスの出入り口に目の細かい防虫ネットを設置。
・光に集まる性質があるため、夜間は消灯。
・光誘引による捕虫機具の活用。または粘着シールによる捕殺。
・菌床表面をマッシュクリーンで湯散布し、幼虫を殺す。



JA秋田ふるさとの菌床しいたけは生産者の徹底した管理、害虫防除により、高品質なきのこが出荷・販売されています。